

## 基本目標4 ワーク・ライフ・バランスの推進

### 基本施策4-1 ワーク・ライフ・バランスの推進

施策の方向性 ワーク・ライフ・バランスについての広報・啓発と、ワーク・ライフ・バランスを実現している企業の社会的評価等の取組を推進する

#### 参考指標と総合評価

指標項目	基準値	中間値	31年度目標値	総合評価
①ワーク・ライフ・バランスの認知度 (名前・内容知っている)	16.5%	31.0%	50.0%	B
②ワーク・ライフ・バランスの努力度 (①のうち、努力していると回答した人)	58.8%	61.1%	80.0%	
③「仕事と子育てを両立させる上で 職場の理解が得られないことを大変 だと感じる人」の割合	18.0%	17.6%	中間値より 減少	
④子どもの出産前後(1年以内)に離 職した人の割合	30.5%	27.7%	中間値より 減少	
⑤「(④のうち)職場において両立支 援制度等が整っていれば、継続して 就労していたと回答した人」の割合	33.5%	24.2%	中間値より 減少	

- ①②基準値：平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（就学前児童・小学校児童の保護者）  
 ①②中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査（就学前児童・小学校児童の保護者）  
 ③基準値：平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（就学前児童の保護者）  
 ④⑤基準値：平成24年度秋田市次世代育成支援に関する市民意識調査（就学前児童の保護者）  
 ③④⑤中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査（就学前児童の保護者）

#### 秋田市子ども・子育て会議委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	15%	75%	10%

##### 【委員からの主な意見（要約）】

- 「ワーク・ライフ・バランス」の名前だけで、官公庁職員は休みやすいが、中小企業ではなかなか難しい。
- 「イクメン」を応援する企業が増えて欲しい。
- 理想としてそうありたいが、現実的にワークライフバランスを優先すると、業務処理、賃金、雇用等々のバランスが崩れてしまう。国が法制化を図り、10年も続けば意識も変わるかもしれないが。
- 子育ての数年間、父母は毎日必死に仕事と家事を両立しており、当たり前にも子どもが病気の時は看病できる社会づくりを企業側と子ども関係課で作って欲しい。
- 子育て中の母親はまだ肩身の狭い思いで働いているので、引き続き啓発をお願いする。第二子保育料無償化されても、親の環境が改善されなければ、第二子出産は難しいと考える親は多いと思う。

#### 課題と今後の対応方針

仕事と子育て等の両立支援制度は整いつつあるが、取得例が少ないのが現状である。特に中小企業にとっては、経費や人員配置等での負担が大きく、職場や経営者の理解も求められている。ワーク・ライフ・バランスの推進に向け、従業員の両立支援に取り組む企業を認定・表彰する制度や、経営者の意識改革につながる秋田市版イクボス宣言プロジェクトなどを継続して実施する。また、ワーク・ライフ・バランスを推進する企業が優遇措置をうけられるなど、中小企業が積極的に両立支援に取り組むきっかけを提供していく。

#### 27～29年度の取組・事業

- ワーク・ライフ・バランスに関する広報・啓発
- 育児休業制度等の周知および啓発
- 積極的に取り組む企業の社会的評価
- 男女共生意識の啓発（再掲）
- 秋田市元気な子どものまちづくり企業認定・表彰制度（28年度から）
- 秋田市版イクボス宣言プロジェクト（28年度から）
- なでしこ秋田・働く女性応援事業（29年度から）

## 基本目標4 ワーク・ライフ・バランスの推進

### 基本施策4-2 社会全体で子育て家庭を応援するしくみづくりの推進

施策の方向性 社会全体で子育て家庭を応援する機運を高め、子育て家庭の孤立感の解消に努める

#### ■参考指標と総合評価

指標項目	基準値	中間値	31年度目標値	総合評価
①「子育てに関する不安感や負担感を非常に感じる人」の割合	15.2%	11.4%	中間値より減少	A
②「子育てに関する不安感や負担感を非常に感じる人」の割合	13.2%	20.0%	基準値より減少	

- ①基準値：平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（就学前児童の保護者）
- ①中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査（就学前児童の保護者）
- ②基準値：平成25年度秋田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査（小学校児童の保護者）
- ②中間値：平成29年度秋田市子ども・子育て支援に関する市民意識調査（小学校児童の保護者）

#### ■秋田市子ども・子育て会議委員による評価・意見

評価	A	B	C
割合	85%	15%	0%

##### 【委員からの主な意見(要約)】

- 子育てにやさしい施設は、トイレにおむつ替えの場がある場合、男女それぞれにあるのが望ましい。
- 各サービスセンターに、保育士資格を持つ方が常駐し、幼児を遊ばせる場があるように、安心して遊ばせたり、子育て相談等ができる場が増えると良いと思う。
- 企業を巻き込んで、もっと子育て家族に優しい秋田を作りたいし、作れると思う。
- 若い母親たちは、ネットで調べたり、いろいろなイベント等に参加していると思うが、その中にある孤立感を持っている本当に情報を必要とする子育て中の母親たちに、どう発信するか難しいところだと思う。

#### ■課題と今後の対応方針

核家族化や共働き世帯の増加に伴い、家族だけで子育てすることの負担が大きいことから各地域の子育て支援を充実する必要がある。SNS等を活用して、各サービスセンターの子育て交流広場や子ども未来センターで実施する各種イベントや子育てに関する情報を積極的に発信していく。また、「子育てにやさしい施設」については、企業に対して普及を働きかけ、社会全体で子育て家庭を応援する気運の醸成に努める。

#### ■27～29年度の取組・事業

- 子育てにやさしい施設の認定
- 地域保健・福祉活動推進事業
- 地域子育て支援ネットワーク事業（再掲）
- 在宅子育てサポート事業（再掲）